

International Theatre Conference Forum 2019 in Saitama



公益財団法人  
さいたま市文化振興事業団

# 世界劇場会議 国際フォーラム

# 2019

in  
さいたま

2019年2月5日[火] さいたまスーパーアリーナ TOIRO

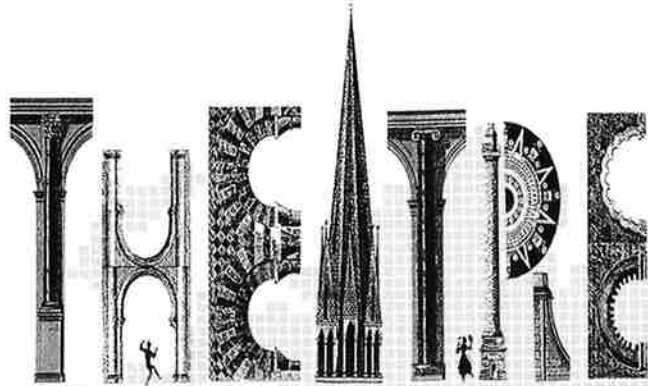
テーマ

劇場は社会に何ができるか、  
社会は劇場に何を求めているかIV  
～文化芸術による社会的処方箋の扉をたたく～



主催：(公財)さいたま市文化振興事業団 共催：さいたま市・NPO法人世界劇場会議名古屋 企画・協力：(公財)可見市文化芸術振興財団

後援：さいたま市教育委員会・(公社)全国公立文化施設協会・朝日新聞さいたま総局・埼玉新聞社・産経新聞さいたま総局・東京新聞さいたま支局・毎日新聞さいたま支局・読売新聞さいたま支局



# 世界劇場会議国際フォーラム2019 in さいたま

## International Theatre Conference Forum 2019 in Saitama

**テーマ** 劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかⅣ  
～文化芸術による社会的処方箋の扉をたたく～

2/5  
[火]

9:30 受付

会場:さいたまスーパーアリーナ TOIRO

10:00~10:20 **開会宣言・趣旨説明** 下斗米 隆、衛 紀生

10:20~10:50 **基調講演**

「日本が抱える社会課題と社会機関としての劇場の可能性」

湯浅 誠

こども食堂の強力な支援者であり、理論的支柱であり、優勝劣敗が常識となった日本の現状を憂いつつ、それでも生きやすい社会の構築に向けてそれでも「YES」と言い続ける社会活動家の視座から、劇場音楽堂等と文化芸術に求められる公共性のある役割とは何なのか、それらが果たすべき役割の可能性に言及して、分断化した日本社会への処方箋の在処を提言していただく。それは、とりもなおさず私たち劇場音楽堂関係者、文化芸術関係者、文化行政関係者等の当事者能力に速やかな「変化」を求める提言となるだろう。

10:50~11:50 **Session 1**

「国の文化支援の変化から捉え直す劇場の在り方」

渡辺 弘、熊井 一記 [進行] 澤村 潤

文化庁から日本芸術文化振興会に移管された「劇場音楽堂等機能強化事業」の申請書を見て衝撃が走った。白紙の頁の続く書類と、新たに「経済的評価」、「社会的評価」を求める変化に、戸惑いと不満と不平が起きた。その不満と不平は、ここ10年の文化政策の動きをしっかりとウォッチングせず、「常識」の中で現場を捉えてきた自分に向けられるべき感情である。このセッションでは、いち早くその変化を先取りすることを試みてきた当事者たちに、未来志向の劇場音楽堂等と文化芸術の方向性を描いてもらう。

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

我が国の文化拠点である劇場・音楽堂等が行う、音楽、舞踊、演劇等の実演芸術の創造発信や、専門的人材の養成、普及啓発のための事業、劇場・音楽堂等間のネットワーク形成に資する事業を支援することで、我が国の劇場・音楽堂等の活性化と実演芸術の水準向上を図るとともに、地域コミュニティの創造と再生を推進することを目的としている。

12:50~13:50 **Session 2**

「民間企業の文化支援の  
変化から捉え直す劇場、文化芸術団体の在り方」

横山 利夫、セーラ・ジー、衛 紀生 [進行] 山出 文男

新自由主義経済思想が投資家の在り方も変えた。株主資本主義が、従来は企業の社会的責任経営(CSR)として設計されていた「文化支援」が株主総会で承認の難しい案件へ激変した。「文化支援」は難しいという経営者がフィランソロフィー(社会支援)なら、と口にする時代となっている。これを企業体質の変化とだけ捉えるのではなく、行政の文化投資の在り方の変化の予兆とも捉えるべきである。近年経営の難しくなっているオーケストラの実情と、社会支援と資金調達を循環させる手法でバーミンガム市警を支えた英国の文化経営コンサル第一人者の考え方を聞きながら、「変化は機会」と捉える未来志向のマーケティング&ファンドレイジングをデザインする。

14:00~17:20 **Session 3**

セーラ・ジー、ルース・ブロック、横山 利夫、渡辺 弘、湯浅 誠、青砥 恭、西 智弘、衛 紀生 [進行] 山出 文男

「文化芸術による『日本版社会的処方箋』を探る」

英国で行われている「社会的処方箋」は、ナショナル・ヘルスサービス(NHS)の慢性的な赤字体質に対して予防医学的手段として英国芸術評議会との提携で実施されているが、日本では、劇場音楽堂等がその拠点施設となり、教育・福祉・医療保健・多文化共生等のあらゆる社会政策に社会包摂機能を駆使して行われるべきと、私たちは未来をデザインする必要に迫られているのではないかと。難民や貧困地区の若者たちへのプロジェクトで第30回高松宮殿下記念世界文化賞を受賞したシェイクスピア・スクールズ財団の代表とともに「日本版社会的処方箋」の可能性を考える。

「社会包摂プログラムに関する活動事例報告」

「文化芸術の社会包摂機能」は、文化芸術分野でより、むしろその外へ大きく拡がっている。「社会包摂型経営」の導入に躊躇って遅れている、相も変わらない東京からの事業購入にとどまっている地域の劇場ホールは時代の要請から大きく周回遅れになっている。ここでは毎回、様々な活動事例を紹介して、そのような草の根の活動を担っているNPO等と連携することで、自己完結的に何かを成し遂げようとする経営に警告を発してきました。今回は自立支援を行っている施設と緩和ケアの専門医師の立ち上げた社会機関を紹介する。

「社会包摂から社会的処方箋へ」

聴話セッション

すべてのセッションを受けて、フロアの参加者とともに、劇場音楽堂等と文化芸術がこれからの社会で果たすべき役割認識を深掘りする。あわせて「日本版社会的処方箋」はどのように設計されるべきかにも触れたい。これから、私たちはどの方向に、何のために、どのような一歩を踏み出せば良いのかをフロア参加者と共有する。

17:30  
19:00

2/5[火]「レセプション」参加費4,000円

フォーラムに参加された皆さんが「劇場」をキーワードに様々な意見や情報を交換する場として多くの方々への参加をお待ちしております。

### 登壇者

Presenter

セーラ・ジー Sarah Gee  
芸術文化組織コンサルティング会社  
インディゴ社業務執行役員

ルース・ブロック Ruth Brock  
シェイクスピア・スクールズ財団  
代表理事

湯浅 誠 Makoto Yuasa  
社会活動家/法政大学教授

横山 利夫 Toshio Yokoyama  
新日本フィルハーモニー交響楽団  
専務理事

渡辺 弘 Hiroshi Watanabe  
公益財団法人埼玉県芸術文化振興  
財団業務執行理事兼事業部長

熊井 一記 Kazunori Kumai  
KAAT神奈川芸術劇場 制作課 係長

青砥 恭 Yasushi Aoto  
NPO法人さいたま  
ユースサポートネット代表

西 智弘 Takashi Shimotomai  
一般社団法人プラスケア  
代表理事

澤村 潤 Jun Sawamura  
公益財団法人可見市文化芸術  
振興財団 事業制作課 係長

衛 紀生 Kisei Ei  
可見市文化創造センター  
館長兼劇場総監督

下斗米 隆 Ruth Brock  
NPO法人世界劇場会議  
名古屋理事長

山出 文男 Fumio Yamade  
NPO法人世界劇場会議  
名古屋副理事長

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督  
衛 紀生 Kisei Ei



今年のメインタイトルも4年続けて「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何をもめているか」になりました。究極はこれに尽きるとの思いがあります。一部の愛好者の趣味・嗜好を満足させるという一般的な認識が改まらないかぎり、社会に必要な施設であり、文化政策が「競い合い・奪い合う」社会で生きづらさを感じている現状を手当てするための最重要施策にはなれないと固く信じているからです。そして、第三次基本方針から7年の時間をかけて、文化政策は保護政策の2.0から社会的必要に基づく戦略的投資として「変化」という価値を求められる3.0へと大きく舵を切りました。劇場音楽堂等と芸術団体関係者には、求められるのが芸術的価値のみならず社会的価値と経済的価値が等価並列となり大きな戸惑いが生じています。その「変化」を前にして不平を言うなら、その前に私たちこそ「変化」しなければなりません。今年は大きく変わった「劇場音楽堂等機能強化推進事業」の要望書類を前にして、その変化をどのように捉えたのかを複数の関係者に証言してもらうことから始めて、株主資本主義の進捗で「企業メセナ」の失速が現実となりつつある激変する経済環境の変化、そして「競い合い・奪い合う」社会の激変の波間で、生きづらさと生きにくさを感じている人々にとって、劇場音楽堂等と文化芸術は何ができるのかを、皆さんと共に考える機会としたいと思います。そして、「社会的処方箋」の活動は教育NPO、福祉NPO、保健医療NPOを中心に燎原の炎のように広がりつつありますが、そのグランドデザインが、すべての社会政策を包括的に文化芸術の社会包摂機能で補完し完遂する「日本型社会的処方箋」であると、今回の世界劇場会議国際フォーラムでキックオフしたいと思います。

パネラー・プロフィール

Profile of invitation

Coordinator



湯浅 誠 Makoto Yuasa

社会活動家/法政大学教授

1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。1995年よりホームレス支援、生活困窮者支援に携わる。2009年から足掛3年間に閣僚参加で就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。現在、法政大学現代福祉学部教授の他、NHK第一ラジオ「マイあさラジオ」、文化放送「大竹まこと

ゴールデンラジオレギュラーコメンテーター、朝日新聞パブリックエディター、日本弁護士連合会市民会議員。著書に『「なんとかする」子どもの貧困』(角川新書、2017年9月刊)、『ヒーローを待たなくても世界は変わらない』(朝日文庫)、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞した「反貧困」(岩波新書)、『貧困についてとことん考えてみた』(茂木健一郎と共著、NHK出版)など多数。

総括責任者  
下斗米 隆 Takashi Shimotomai  
NPO法人世界劇場会議名古屋理事長

コーディネーター  
山出 文男 Fumio Yamade  
NPO法人世界劇場会議名古屋副理事長



セーラ・ジー Sarah Gee

芸術文化組織コンサルティング会社インディゴ社業務執行役員

公益芸術文化組織の分野で25年の経験を持つ。英国で資金調達に関するコンサルティングを行う傍ら、ヨーロッパや日本、中東などでプリティッシュカウンシル等が主催の人育成や会議の統括などを務める。新しい形の資金調達に関心を持ち、バーミンガム大学と共同して寄付をする人の動機と観客のチケット購入行為との関連性についてのリサーチを行った。RPS(ロイヤル・フィルハーモニック協会)、NCA(公的文化芸術補助金促進運動団体)等を含む組織の理事を務め、RPSでは監査者開発委員を兼任する。



ルース・ブロック Ruth Brock

シェイクスピア・スクールズ財団(SSF)代表理事

ケンブリッジ大学英文学専攻。卒業後は小さな演劇チャリティ団体の建て直し経営のほか、ニック・クレック元英副首相の国会リサーチャー、メディアマネージャー、上級広報官を6年間務める。その後ロンドンで恵まれない環境に育った子供たちの教師を務め、彼女の担当していたクラスがSSFの2013年フェスティバルに参加、SSF事業のクラスへの強い効果に影響を受ける。2015年からSSFの代表理事。教育、芸術、文学がもたらす変化の可能性と、それがいかに寛容、公平、そして包摂的な社会を建設するか、がブロック氏の原動力となっている。



渡辺 弘 Hiroshi Watanabe

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 業務執行理事兼事業部長

1980年より情報誌「シティロード」の編集に携わり、演劇ジャーナリストとして活動。84年西武百貨店文化事業部に入社し「銀座センソ劇場」の開業準備と制作業務を行う。89年東急文化村に入社し「シアター・コクーン」の運営、制作を行う。2003年より長野県松本市の「まつもと市民芸術館」にて支配人兼プロデューサーとして運営、制作を行う。06年からは(財)埼玉県芸術文化振興財団にて事業部長として蛸川幸雄芸術監督の下で運営、制作を行い現在に至る。



熊井 一記 Kazunori Kumai

KAAT神奈川芸術劇場 制作課 係長  
「劇場、音楽堂等連絡協議会」事務局

1998年劇団四季(四季株式会社)、東京公演本部で営業・プロモーション企画等を担当。2002年神奈川芸術文化財団、法人本部で票券と編集を担当したのち、KAAT神奈川芸術劇場の開演準備室にて、開館広報、CI作成等を担当。現在、文化庁補助金、企画調整、理事会運営、第3セクター経営改善、指定管理提案、KAAT県域巡回公演、共生共創事業、地域文化資源調査等を担当。



横山 利夫 Toshio Yokoyama

新日本フィルハーモニー交響楽団 専務理事

1976年慶應義塾経済学部卒業後、日興証券(現SMB C日興証券)入社。日興インターナショナル(NY)取締役社長を経て、1998年日興コーポリアル証券(現SMB C日興証券)執行役員就任。その間に企業留学でパリ大学大学院卒業(1985年)。その後、日興アセットマネジメント代表専務取締役、日興シティ信託銀行代表取締役社長を経て、2007年にA I U保険会社日本代表者・会長兼社長に就任(2011年退任)。2015年慶応大学大学院・美学美術史学科卒業。2014年(公財)新日本フィルハーモニー交響楽団専務理事就任



青砥 恭 Yasushi Aoto

NPO法人さいたまユースサポートネット代表

元埼玉県立高校教諭、明治大学講師。「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」代表幹事。朝日新聞「まなぶ」「はくくむ」シリーズ連載。著書(共著・編者)に『ドキュメント高校中退』(筑摩書店)、『若者の貧困・居場所・セカンドチャンス』(編者 太郎次郎社エディタス)、『ここまで進んだ!格差と貧困』(共著 新日本出版社)、『続移行支援としての高校教育』(共著 福村出版)、『前川喜平教育のなかのマイノリティを語る』(明石書店)等。その他NHKETV特集などに出演多数。

さいたまユースサポートネット <https://saitamayouthnet.org/>



西 智弘 Tomohiro Nishi

川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター  
腫瘍内科/緩和ケア内科 一般社団法人プラスケア代表理事

2005年北海道大学卒。室蘭日鋼記念病院で家庭医療を中心に初期研修後、川崎市立井田病院で総合内科/緩和ケアを研修。その後2009年から栃木県立がんセンターにて腫瘍内科を研修。2012年から現職。現在は抗がん剤治療を中心に、緩和ケアチームや在宅診療にも関わる。また一方で、一般社団法人プラスケアを2017年に立ち上げ代表理事に就任。「暮らしの保健室」の運営を中心に、地域での活動に取り組む。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。著書に「緩和ケアの壁にぶつかったら読む本」(中外医学社)、『残された時間を告げるとき』(青海社)がある。



澤村 潤 Jun Sawamura

公益財団法人可児市文化芸術振興財団 事業制作 係長

98年から東京グローブ座にて「グローブ座春のフェスティバル」、「子供のためのシェイクスピアシリーズ」の制作を担当。02年より可児市文化創造センター。演劇・ダンス事業のチーフとしてala Collectionシリーズなど数々のプロデュース作品の制作に携わる。また、ワークショップやアウトリーチなど様々な地域支援プログラムを手掛ける。11年に文化庁新進芸術家海外留学制度により80日間イギリスに留学。



参加申込要項

●参加費

フォーラム参加費 **2,000円** レセプション参加費 **4,000円**

●申込方法

参加申込用紙にご記入の上、郵便・faxまたは同じ内容をE-mailにてお送りください。  
フォーラム当日参加費のお支払いをお願いします。

申込締切 **2019年1月25日(金)**

※当日の参加もお受けいたします。ただし参加者多数の場合はお断りする場合がございます。

●会場案内

さいたま  
スーパーアリーナ  
TOIRO

〒330-9111  
埼玉県さいたま市中央区新都心8番地  
JR京浜東北線・宇都宮線・高崎線  
「さいたま新都心」駅下車 徒歩4分



申 込  
お 問 合 せ

(公財)さいたま市文化振興事業団「世界劇場会議国際フォーラムinさいたま」係  
〒336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1

Tel.048-866-3467 Fax.048-837-2572  
E-Mail:artm@saitama-culture.jp

世界劇場会議国際フォーラム2019 in さいたま 参加申込用紙

ふりがな		性別	年齢	所属団体
お名前		男・女	才	
※団体申込の場合は代表者をご記入の上、参加者名簿をお送りください。				
ご連絡先	〒( ) ( ) ( )			
	都道府県 区市郡			
	電話 ( ) ( ) ( )	FAX ( ) ( ) ( )		
E-mail				

参加費	フォーラム参加費 2,000円 × 人	レセプション参加費 4,000円 × 人		
	合計			円
	参加費納入に際しての請求書	<input type="checkbox"/> 必要	領収書の発行	<input type="checkbox"/> 必要
請求書の宛名				

artm@saitama-culture.jp / Fax. 048-837-2572